

履正社学園豊中中学校・履正社高等学校 図書館

図書館だより

第3学期を迎え、新たな志を持って過ごしている人も多いのではないのでしょうか。今年も読書に親しみ、想像力を養い、知識を増やしましょう。

新収図書・蔵書紹介

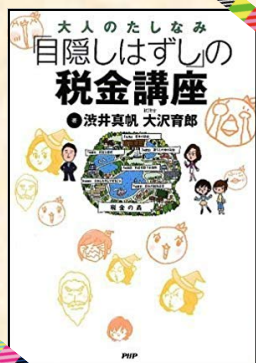
発想力を鍛える 33の思考実験 北村 良子(著)、彩図社

● このような問題が載っています。仮に「1人の人間が2人に分裂してしまったとき、どちらかが本物でどちらかが偽物だと考えるべきなのか」。そんな思いがけないことが起こり得るのが世の中です。もし自分が分裂し、自分が帰宅したときもう一人の自分が家でくつろいでいたらどうなるでしょうか？何をもって自分を自分であると証明するのでしょうか。このような例題が何種類か紹介されています。沈黙考してみてください。自分の解を出す過程が重要なのです。



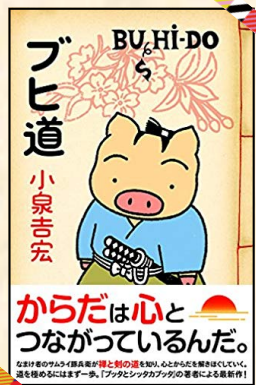
「目隠しはずし」の税金講座 渋井 真帆・大沢 育郎(共著)、PHP研究所

● 普段、物を買うときに消費税を払ってますよね。その他にもたくさんの「税」があります。住民税や所得税や法人税ですね。それらは、「誰が」「いつ」「いくら」納めているのでしょうか？話題になっている「ふるさと納税」などの話も載っています。大人になるにつれて知っておくべき様々な税の知識が載っています。ぜひ一読してみてください。



ブヒ道 小泉 吉宏(著)、ポプラ社

● 怠け者の豚兵衛が道を極めようとする心を学ぶ様子を4コマ漫画で見やすく読みやすく描いてある本です。緊張するといつも出来ていたことができなくなる、そんな経験ありますよね。そんなとき、どんな心でその課題に臨めばいいのか、「臨機応変」に対応する力について、ヒントが載っているようです。この本は、沢庵和尚の「不動智神妙録」の話を軸に展開します。宮本武蔵の心の師匠と言われる沢庵和尚が禅の見方で剣法を説いたものです。また、新渡戸稲造という方を知っていますか？旧5千円札の肖像の方です。この方が明治時代に書いた「武士道」という書物で、世界に武士道とは何たるかが広まったとも言われているようですよ。



各教科よりおすすめ本の紹介

芸 術科より: 岩波クラシックス『モーツァルトの手紙—その生涯とロマン—の紹介

「…僕は詩のように書けません、詩人ではないから。文句を巧く配置して、陰と光が生じるようにはできません、画家ではないから。手ぶりや身振りで、気持や考えを表すことはできません、舞踏家ではないから。でもぼくは、音をもってなら、それはできます。ぼくは音楽家です。…」(1777年11月8日父宛)詩人ではないと言っておりますが、なかなかどうして、名文名言の宝庫です。死と隣り合わせに足早に生きた天才作曲家、その栄光と挫折の物語が手紙を通して浮き彫りになります。反骨精神、尽きせぬユーモア、大丈夫か？と心配になる悪ふざけ…どのように深刻な状況でも絶望することなく、前向きに生きた賢者の証。その音楽と共に生涯の友とするに足る書物です。



社 会科より: 小学館『学習漫画少年少女日本の歴史』の紹介

中学生高校生を問わずオススメです。内容が複雑な部分も漫画であらましを理解することが可能です。その他、集英社版や学研版の通史もあるので比較しても面白いと思います。まずは試験範囲で設定された時代から読んでみてください。



英 語科より: 研究社『マンガで楽しむ英語擬音語辞典』の紹介

この本では、日本語で言うところの擬声語や擬態語の英語での表し方がマンガを交えてわかりやすく紹介されています。マーヴェルなどのアメリカンコミックを原書で読みたい人、またそれらについて外国の人たちと英語で語り合いたい人におすすめです。ポリポリの音に動詞の“crunch”を用いたものなど、私たちには想像すらつかない表し方が使われています。この本を読んで英語の擬音語の表し方をいくつか覚えると、また一味違ったアメリカンコミックの楽しみ方ができますよ。



集英社文庫の一部紹介

これまでの新書などの他に、集英社の、持ち運びしやすい文庫本(小説等)も約90冊所蔵しました。これまでの小説では読んでも続かなかったり、敬遠してきた人におすすめです。読みやすいので、読み始めたら止まらない人もいるみたいです。以下、それらのうちの一部を紹介します。



吸血鬼と怪猫殿 赤川次郎(著)

● この小説はいろいろな楽しみ方ができる作品です。というのは、アクション、ミステリー、ホラー、人間ドラマなど、様々な要素を含んでいるからです。著者である赤川次郎氏は、2016年に公開された橋本環奈主演の『セーラー服と機関銃-卒業-』の原作者で、物語の中の登場人物の行動だけではなくその背景も描いています。本作品は吸血鬼シリーズの一編で、1998年7月に集英社コバルト文庫より初版が、2017年9月に集英社文庫での第二刷が刊行されました。ストーリーは主人公である吸血鬼のフォン・クロックとその娘のエリカの視点で第三者的に事件を見つめる描写なのでとても読みやすいです。誰でも気軽に楽しめますが、繰り返し読むとその度にちがったものが見えてくる作品です。

